

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年6月5日（月）～平成29年6月11日（日）〔平成29年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

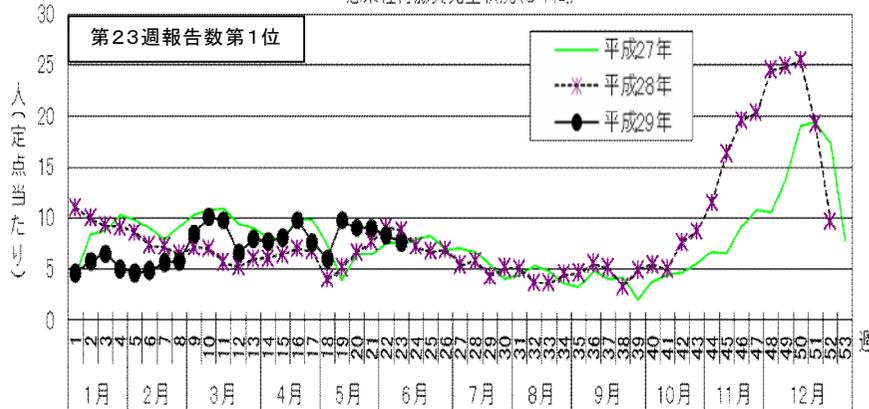
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.58人と前週（8.25人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.31人と前週（5.53人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

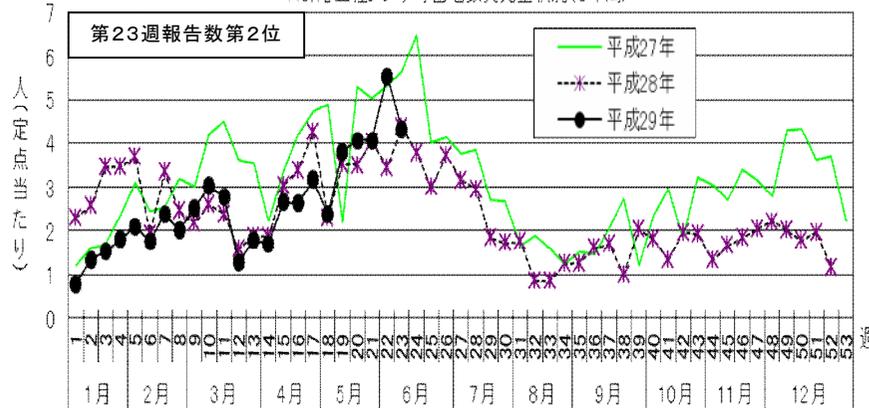
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週（2.56人）から減少し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## 咽頭結膜熱の患者報告数が急増しています！

咽頭結膜熱は、アデノウイルスを原因とする感染症で、通常夏季に流行します。川崎市では、第23週（平成29年6月5日～6月11日）の定点当たり患者報告数が1.36人と、前週から大幅に増加しており、麻生区では流行発生警報基準値（定点当たり報告数3.0人）を超えています。また、年齢階級別では5歳以下の小児の報告数が多くなっています。

アデノウイルスは感染力が強いため、特に保育園や幼稚園などの集団生活の場では、手洗いなどの予防対策を心がけましょう。

### 咽頭結膜熱について

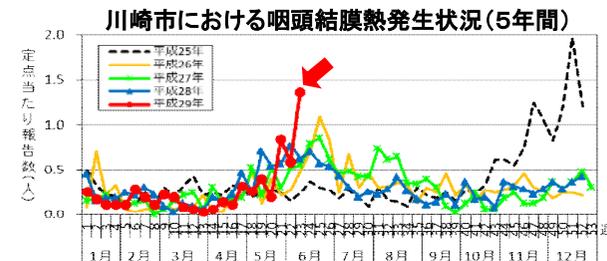
【潜伏期間】 5～7日

【症状】

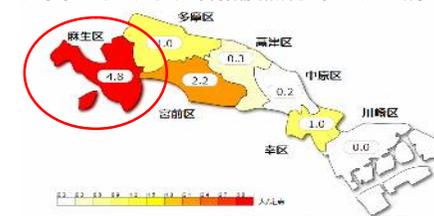
急な発熱（39℃前後）で発症し、全身倦怠感とともに、のどの痛みが現れます。また、結膜炎に伴い結膜充血、目の痛み、目やにが出ます。

【予防方法】

- ✓ タオル類やおもちゃの共用は避ける。
- ✓ 流水や石鹸による手洗いを徹底する。
- ✓ プール利用前後にシャワーを浴びる。



川崎市における咽頭結膜熱分布マップ(第23週)



川崎市感染症情報発信システム (KIDSS)